



校長通信

令和4年度 9号 令和4年7月19日

和歌山市立河北中学校 校長 戸川定昭

《和歌山市中体連夏季大会》

7月2日の水泳から始まった市中体連夏季大会、7月18日、すべての日程を無事終了しました。十分な時間を取ることができませんでしたが、水泳、バスケットボール、サッカー、柔道、剣道、ソフトテニス、野球、卓球、陸上と、本校生徒が出場したすべての競技の応援に行くことができました。

3年生にとっては、最後の大会ということで、特に気合いが入っていたと思います。勝負事ですので、勝つに越したことはありませんが、相手も勝とうと全力でプレーしてきます。ちょっとした運の差で、勝利を得たり、惜敗したりします。そんな中、一番大切なことは、最後まで諦めず、自分の力を精一杯出し切ることでないでしょうか。そして勝っても、負けても、その試合を振り返り、次に活かしていこうとする残心の精神も、忘れてはなりません。

暑い中、子供達の応援に、保護者の方々もコロナ感染拡大防止に配慮しながら、多数会場に来てくださっていました。ありがとうございました。



photo.jp - 731112128

《大会運営を支える舞台裏》

大会の主役は、選手ですが、その選手が最高のプレーをできるように大会を準備・運営するのは大会役員です。中体連の大会では、各競技連盟の方々にご協力をいただきながらも、役員の大半を占めるのは、その競技の部活動の顧問・教員です。また、補助役員として、その競技の、部活動の主に下級生が運営の手伝いをしてくれたりします。これらの方々の献身的な取組のおかげで大会ができるということを、ここで共通認識するとともに、大会の運営に関わっていただいたすべての方々に、感謝と敬意を表したいと思います。

《審判員の重要性》

大会を支える役員と同様に重要な役目をするのが審判員です。それぞれの競技の特性があり、比較的判定しやすい競技では、生徒が審判をすることもあります。大半の競技は、専門性に長ける熟練者が務めます。審判認定講習会受講や資格取得が必要な競技もあります。今回、大会を見ていて、サッカー、バスケットボールの審判員は、試合中、選手と同じように走り回っているの、体力も必要でたいへんな仕事だなと思いました。また、野球の球審も暑い中、審判マスクをつけて、1球、1球腰を落としながら、ストライク、ボールの判定をする。これも重労働です。

ちなみに、わたしは、剣道の審判員が足りないということで、2日目の団体戦で審判を務めました。海南の中学校で勤務していた頃は、軟式野球部の顧問だったので、中体連の市や県の大会で、野球の審判をしていました。近畿大会出場がかかる県大会準決勝で球審を務めた時は、プレッシャーがかかって大変でした。ミスジャッジもなく、無事ゲームセットを宣告したときは、ホッとしたことを覚えています。